



# 波紋

特定非営利活動法人  
教育活動総合サポートセンターだより  
「波 紋」 第 8 号  
発行人 宮田 進  
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター  
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8  
TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0980  
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/  
印刷 西様印刷株式会社

## 拡大から成熟組織へ 多様化した業務を直視し、草創の精神を忘れず

NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 宮田 進

前年度末に、3月にはわが国の歴史に前例のない巨大地震が発生しました。地震については、世界で最先端の研究が進んでいるわが国ですが、その専門家でも予想しなかった巨大エネルギーが放出さ

れました。被災に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。地震の被害は海外で大きく報道されました。とくに多くの国が「日本では、甚大な被害にあつても、国民はどうして冷静な態度と行動が取れるのだろうか。多くの国では暴動が起こり、略奪が頻発するが日本では、直ちに助け合いの輪が広がり、協力の手が組織として活動する。」ことを報道しています。

救助に当たった方の中には、自分の健康被害を覚悟して勇気ある行動をとった人もいます。「困難といわれる地震の後処理」に優しく、心強い人々が大勢いることを知りました。

さて、情報化社会といわれて何年間か過ぎました。人々の「もの見方や考え方が多様化している」といわれます。今回の地震は他人のため、地域や国のために活動する人々が大勢いることを教えてくれました。また、震源地から離れた首都圏を中心にガソリンがなくなり、トイレトベーパーがなくなり、自分自身を大切に個人の考え方を優先する人々も大勢いることがわかりました。

8年前に、NPO法人教育活動総合サポートセンターが立ちあげられました。学校現場を去った者が集まって設立されました。設立に参加した教員は、現役当時、協力し支援をする大勢の保護者と同じ時に、対応に苦慮した保護者もいたことを思い出します。現役当時、同じ思いをした者が

退職と同時に、子どもの支援に、教職員の支援に、学校の支援に、さらには教育行政への支援と、教職員の経験を生かした支援活動を拡充することに専念してきました。現役時代は校種も担当教科も職員でありましたが、「教育へのサポート」という目的に向かい支援活動を通して、互いに共通理解を図ることの大切さを学んできました。



創立して8年め、役員理事も、活動も、会員もだいたい入れ替わりまわりました。組織も大きく複雑になりました。組織も大きく複雑になりました。組織も大きく複雑になりました。組織も大きく複雑になりました。

「サポート精神」を理解することが大切になりました。本年度は宮ノ下にあります事務局の組織を会員の特長と情熱が発揮できるよう改編を図りました。事務局次長をこれまでの3人体制から、5人体制にいたしました。一つは、子どもの問題行動を未然防止する事業の充実を図ること。重点を置きました。もう一つは、子どもの「もの見方・考え方が多様化し、要求行動も複雑化していることへの対応です。要求が満たされない子どもの問題行動については先導的でも、実践的な研究活動が必要と考えました。本年度の活動方針・事業計画は事務局から示した通りでございます。草創期の精神を忘れず、組織の成熟化を図り、練度の高い活動を目指してまいります。皆様のおかげで、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 23年度活動方針・事業計画

「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう組織機能の一層の充実を図る。

### 1 活動方針

- ① 家庭・学校・地域および教育関係機関等との連携を深め、各学校の教育活動の充実発展を支援する。
- ② 一人ひとりの児童生徒がこころ豊かにそして生きる力を身につけられるよう支援する。
- ③ 組織力の強化と諸活動の充実、幅広い活動会員の受け入れと賛助会員の拡大を図る。

### 2 事業計画

学校へ行きたくても行けない子どもたちのために、学習・相談の支援活動を8年前から始めて来た。これらの実践は、平成17年度より6年間にわたる文部科学省の研究を推進することにより、実績を積み上げてきている。この実践研究を基礎として21年度途中より「川崎区教育支援」(こどもサポート旭町)事業が始まった。すでに活動を開始している「こどもサポート南野川」「中原区教育支援」「高津区教育支援」等と一体的な活動を進め不登校児童生徒のみならず、問題行動児童生徒を含めた支援活動に取り組む。

### (1) 学習指導部

- ① 学習指導  
不登校児童生徒の学校復帰をはかるため、児童生徒の特性を生

かした指導の充実を図る。

### ② 日本語指導

海外からの帰国児童、外国人への支援を図る。

### ③ サイエンスキッズ

実験・実習を通して理科学習の楽しさを味わわせる。

### ④ キッズセミナー

生涯学習プラザを会場に「得意な科目はさらに得意に」疑問、矛盾を解決する「自由研究」等多様な講座を開設し個性伸長を図る。

### (2) 相談・適応指導部

- ① 相談活動  
不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒の相談活動を推進する。
- ② 適応指導  
ふれあい活動宿泊体験  
不登校児童生徒が心を開き特別支援児童生徒が軽快に活動できるように、子どもに活力をつけた。

- ・体験活動  
鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせたい。
- ③ 学校との連携  
児童生徒とのサポートセンターでの学習、生活状況の変容等の様子を学校に連絡し、学校との連携を深める。

### (3) 事業部

- ① 青少年の家・管理運営事業  
自主事業の充実・発展に努め、地域・家庭・学校との連携を図る。

- ② 大山街道ふるさと館・管理運営事業
  - 館の管理運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動に職員のノウハウを活用し、市民の幅広い参加を図る。
- ③ 子どもサポート南野川・管理指導事業
  - 不登校児童、軽度特別支援児童生徒、反社会的傾向児童生徒の学習支援を図る。
- ④ 子どもサポート旭町・管理指導事業
  - 不登校児童、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒に対する学習支援及び集団遊戯を通じた学校、社会復帰に向けた支援。
- ⑤ 輝け☆明日の先生の会事業
  - 教員を目指す臨任、非常勤、大学生等が対象。教育に関する様々な課題を具体例を通して学ぶ。年間15日(25講話)、セミナー7日を予定。
- ⑥ 新しい学校づくり☆川崎塾
  - 今日的な教育課題を幅広い立場から探り、これからの学校現場のあり方を考える。
- ⑦ サポーター配置事業
  - 特別支援、学習支援に年間を通して、学生等を配置する。
- ⑧ 文化講演会
  - 教職員、PTA、市民向けに文化向上を図る講演会を企画開催する。
- ⑨ 各区から受託した事業
  - 昨年度より川崎区、中原区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待に添うよう、また、各種の問題や課題の未然解決が図れるよう、それぞれの区と綿密な連絡を取りながら事業に推進にあたる。

### 問題行動等への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業報告会

### 文部科学省委託事業

本研究事業は、昨年度に続き2年めとなる。当初の予定では3月23日に川崎市教育会館で研究報告会を開くことになっていたが、3月11日の大震災の影響で、報告会を中止とした。全市の小・中・高・特別支援の各学校及び教育関係機関や関係する皆様方には、研究冊子をお届けする。

### 新しい学校づくり☆川崎塾

本年度の研究の中心は、当サポートセンターでとらえられている問題行動の改善に向けた、指導プログラムの開発である。学習や人間関係形成およびアンガーマネジメント等の5つのプログラム



本実践に基づいて開発した。別冊を含めた研究冊子には20人の事例について、改善に向けた取り組みの概要と詳細が、また学習上のつまづきへの対応の14事例が記されている。



### 小学校部会

問題行動等の種類「非社会的問題行動」その指導プログラム(ソールシャルスキルトレーニング)「少しづつ、人とかかわりをし始めたT男」の事例から、T男の問題の背景には、「学校が嫌い」というより人が怖い」という思いが強い。そのため、母子分

### サポーター配置事業

学級の学習指導等の支援を目的としたサポーター配置事業も7年めを迎えた。これは川崎市が教育を大切にしている行政施策の一つで、他市・他県では見られない事業である。教育委員会から委託を受け、当サポートセンターで教員を指導する学生を中心として小・中学校に配置を行っている。昨年は350人を超える学生が45大学にまでおよんだ。各学校の状況理解、面接での適正等の把握、実情にあつた配置計画、配置後の活動の様子や事務処理、サポーター力量アップのための研修の計画等々事業充実のために配慮することは多岐にわたる。

### 川崎市青少年の家指定管理受託

○ほのぼののスクール「自分でやろう みんなとやろう」異校種の子どもたちが青少年の家に宿泊して通学する、友との交流のすばらしさ、家族の存在を深く認識する。○エコチャレンジクラブ活動 身近な環境についての体験学習を通してよりよき地域社会の創造に取り組んでいる。

スタツフは元教員経験者のため学校の実情も理解でき双方の連絡・調整は円滑に進められている。「子たちに力をもつ」と狭い事務所内で今年も奮戦が続く。 担当理事(小・築部、鈴木 中・對馬、渡邊、事務・長澤)

### 中学校部会

問題行動等の種類「担任・教師との人間関係の問題」その指導プログラム(コミュニケーション・人間関係形成)「寂しさを抱え込

み、心を閉ざしているI女」の事例から、I女の問題の背景には、強い「天人不信」がうかがえた。そのため、I女が人を信じられる。自己肯定感を高める。感情を思いのままに表現できる。を目標に、サポートセンターでの学習や声かけ等の直接的なかわりや、学校・保護者等関係機関等との連携の中で、I女が、少しずつ変容していく過程が記されている。



多くの目で子どもを見守る大切さを学んだ事例であつた。(片山 田鶴子)

# 学ぶ喜び 楽しむ

## 「いっぴいの予たち」

### 勉強はおもしろい!

ぼくは、5年の時勉強をあまりしていなかったで、初めて勉強をしつかりしたいと思ってサポーターセンターにきました。

5年の終わりが、友たちと二人で通い始めました。初めはすごく緊張して勉強もしなかったけど、先生のいう通りにやっているとすごく勉強が楽しくなってきました。国語や算数の勉強がわかってきて、5年のまとめのテストでも今までは、60点以下だったのに、今回は90点ぐらいの点がとれました。その後、サポーターに通い、6年の勉強のいいスタートができてうれしかったです。今も勉強がよくわかってうれしです。サポーターに通ってとてもよかったです。

あと少しで中学生になるので、英語の勉強が難しそうですね、少しずつ英語の勉強もしています。英語は難しいけど楽しいのでがんばりたいと思います。

(小6・S・K)

### 楽しかったカレーづくり

はじめてサポーターにはいって、はじめのころは、おくれでばかりだったけど、あとからのしくなっておくれなようになりました。

たんと先生の「ふれあい活動にいかない？」といわれ私ははじめてさんかしました。すぐ友だちができてうれしかったです。ねる前に私たちはこわい話をしてもりあがりました。

みんなで広場でカレーを作り楽しかったです。とてもおいしいカレーでした。

私は音読が好きでサポーターに来た時はかならず音読をします。

気持ちをこめて読むのがだんだんうまくなりました。5年生になってふれあい活動になかなか行けなくて残念です。ま

### すべてを受け入れることから

### トンネルの向こうに希望の光

#### ―息子への感謝―

息子は中1の1月から不登校になりました。今まで不満に思っていた事を徐々に話してくるようになり、自分の存在が認められていない思い、自分の事を押しつけた親の事をきくい子を押して反省する日が続きました。

しかしうつむいてばかりもいられず、私もうまかかわる決意で、まず息子のすべてを受け入れる事からはじめました。時には意見がくい違ふ事もありましたが、一呼吸おき正直に冷静に私の思いを伝えるよう心がけました。心の中で

た行きたいと思えます。

(小5・K・Y)

### 春から高校生

中2の頃の私は、全く理由がわからないままに学校に行けなくなり、とても落ち込んでいました。そのうちご飯が食べられなくなり、ほとんど寝たきりになって、夏ごろに入院しました。

病院では部屋から出られず友だちの見舞いも禁止でひまをもて余していました。こうしてはいられないと無理にでも食べているうちに元気が出てきて、退院しました。そして退院後にサポーターに通うようになりました。サポーターセンターではお昼に中3の仲間

4、5人とお弁当を食べたり、外出したことがよい思い出となり、私が猛烈な勢いで勉強を始めました。

引きこもりを長引かせず、必ず立ち直ると息子を信じる強い気持ちもありました。

10カ月たった頃、相談会に参加してサポーターセンターの先生方に会おう事ができました。いつでも待っていますと聞いていたが、ここからまたがんばる気持ちがあれば、この先の道も開けると確信しました。思い切つて息子に話したところ、行ってみると即答でした。暗くて長いトンネルの向こうに、少し希望の光が見えた気がしました。

初めの頃は胃の痛みをこらえながら通っていましたが、先生方の

たのは、高校が決まってきたからです。家でも勉強をし、数学のドリルを1冊やりとげました。

春から高校生、私は楽しみで楽しみたいです。無理をしすぎないようにがんばりたいです。疲れた時は疲れた、と周りにいつて理解してもらえようになりたいと思います。

(中3・M・K)

### 不登校ハンザイ

私は中1の冬休み明けから、不登校になりました。親にガンバレとばかり言われ、毎日が辛く徐々に登校できなくなりました。仮病を使ったり、無理に嘔吐していました。引きこもつてからはゲームばかりしてろくに食事もしませんでした。親へ今までのためつた不満を言い毒を吐く毎日が続き

ご指導により勉強の遅れを取り戻す事ができ、感謝の気持ちを持てるようになっていきました。考え方が前向きになり「俺少し変わった気がする。ピンチはチャンスだね」と。涙がでました。

先生方に支えていただき、今春高校に合格する事ができました。息子が立ち直るためにご尽力くださいました先生方、本当にありがとうございました。出会いを大切に感謝の気持ちを忘れず歩いてほしいです。

(中3母・S・Y)



ました。そして徐々に将来の事が不安になってきました。そんな時に親からサポーターセンターを紹介され、行ってみることにしました。初めのうちは外出するたびに腹痛がおき、大変でした。全ての通行人が自分を見ているような気分でした。なれてくるとどれもなくなってきました。先生方のおかげで勉強も遅れを取り戻すことができました。先生方にはどうお礼をいっていいかわかりません。

私は不登校になってよかったです。思いますが、自分を見つめなおすいい機会になり、全てのこと感謝できるようにになりました。不登校ハンザイ!

(中3・Y・T)

### 開く子どもの心を

不登校の児童生徒は自分の中に閉じこもりがちである。時間をかけてじっくり取り組んでいるが、それでもなかなかうちとけてくれない。心を開かせるきっかけの一つは、学習したことを理解できるようにすることである。

わからなかったことが理解できるようになること、自信を持つようになり、それが、心を開くきっかけになることが多い。

サポーターセンターは、不登校児の人間関係づくりの場だと思おう。子どもたちが「ここに来るのが楽しい」と思うようなサポーターになるようがんばりたい。そして、最終的には、学校に行けるようになせたいと願っている。

(サポーター・T・K)

# 教育相談活動にあたって

## 子どもたちに寄り添って

昨年の猛暑が続く夏のある日、「中2の男子、6月頃から学校に行っていない。学習の遅れを心配している。勉強を教えてもらいたい。」との相談がありました。面談の結果、子どもの学習したいという強い思いを受けとめ、週2回、英語と数学を、一対一の学習体制ですずめることになりました。サポートセンターには、平成22年度中に、100件を超える相談がありました。

相談内容は、主に不登校や学習不振、特例支援教育に関するものが多いのですが、中には、子どもの相談に合せて、子育てや虐待など家庭の問題に関するものもあります。それだけ保護者や子ども

の抱える問題は大きく厳しい状況なのだ、相談に対し真剣に向き合っています。

相談活動は、保護者が一番多く、学校や各区の子ども支援室など多岐に渡ります。

子どもが学習を開始した後も、引き続き行なわれます。学習担当者から子どもの学習状況について相談を受け、検討し、その内容によっては「学習・相談打ち合わせ」等で話し合い、共通理解をした上で、多くの目で子どもたちを見守ります。また、学校等とも連携しながら、子どもたちにきめ細かい支援をしております。  
(相談活動課長・片山田鶴子)

# 「こどもサポート南野川」

## 継承発展

開設2年目の平成22年度は来所者が飛躍的に増加しました。これは、スタッフの熱心な教育活動が実を結び、当所の存在が広く知られたことによるものと思えます。

不登校で来所している子どもたちは、何かにつまずいてはいるものの、ほんとうは学びたがっています。それを除いてあげると、驚くほど進歩し、やがて学校復帰していきます。

「こどもサポート南野川」は学ぶ過程で登校力を培うことを目標としています。3年めはこれまでの経験を生かしてさらに充実させるべく、日々、子どもを慈しみ育ててまいります。

# 大山街道ふるさと館

街道博物館の特色を生かして全国に類を見ない街道博物館である当館は、川崎市生涯学習財団と連携をとりながら展示事業や文化事業を推進してきました。

本年度も街道が生んだ歴史や文化の探求を通して、郷土への愛着と理解が深まるよう、諸事業を企画しています。一例ですが、郷土理解講座では実際に大山街道を歩く予定として発足した「子ども大山街道探検クラブ」の活動は、子どもたちの歓声が館内に響き渡るよう、いつそこの充実を目指してまいります。また、多くの来館者・利用者へのニーズに応えるべく、冊子「訪ねて楽しい大山街道」の編集に取り組んでいきます。皆様方のお力添えをお願いいたします。

# 学びへの支援の連携

中学1年のNは県警の少年保護センターからの紹介で、当サポートセンターに通うようになりました。不登校のN自身の心を動かしたのはお父さんです。お父さんの話は、「ここは、個別に勉強を教えてくれると聞いている。息子は補導歴があり、今も家を出ていない。息子には信念があり、ここなら通えるような気がする。何日までに連絡させるので、ぜひ受けとめてほしい」ということでした。こうした相談があつて、約束した日にNはやってきました。2度めにNに会ったのは、児童相談所の一時保護中に福祉士に伴われてのことでした。学びの場をめぐるNがサポートセンターを希望したことにより。



(研究課長 石原由美子)

Nは毎日通所する中で、同じように学びとぬくもりを求める仲間を一人二人と連れてくるようになりました。子どもたちの支援をめぐる、学校を中心に各区の子ども支援室、警察、児童相談所、裁判所そして家庭との協働が現実に進められています。

# さらなる発展を願って

多くの活動会員の皆様のあたたかいご協力とご支援をいただき「サポートセンター」の活動も8年めを迎えることができました。学校に足が向かない不登校の子どもたちに、学習支援を中心に活動して、その事例研究を重ねてきました。その結果として平成22年度も文部科学省の「実践研究事業」の委託を受け、「問題行動への対応」をテーマとしました。残念ながら地震等の影響で予定していた発表会は中止となりましたが、

現在、小中学校、研究機関等へ冊子を配布しているところで。委託研究は23年度は一旦お休みしますが、カリキュラム委員会を通して研究を継続していきます。平成22年度は多くの方々の協力のもとに、区からの受託事業を含め、25の事業を運営し活動してきました。今年も宮田理事長を中心として新たに出発しました。6年間積み上げてきた経験と実績を大切にしながら、新しい発想のもと相互の連携と協力により、子どもたちの健全で心豊かな成長を願っています。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。  
(事務局次長・對馬)

# こどもサポート旭町

## 変容の検証を

開設1周年を迎えます。3月末の来所者は17人。全員が非社会的問題行動(不登校)を抱えています。最終目標は学校への登校です。来所者の中3(2人)は高校進学。小6(2人)はともに卒業式出席を果たしました。このニュースに「ほくも、高校に行くぞ」と希望を語る子。「奇跡がおきました」と語る母親の姿が印象的でした。2年めは、こどもの変容・成長を検証しながら、開所日拡大を目指します。



◇東日本大震災から、一か月たつた現在も、復興の足がかりはできつつあつても、大きな被害を受けた大多数の国民の「心」がもとにもどることはないであろう。海外からの物心両面の支援がせめてもの慰めと心に刻んでいます。◇平成23年度サポートセンターは設立8年めを迎えました。「子たちに力」をモットーに、多くの方々の協力のもとに、25の事業を運営し活動してきました。しかし、今年度2年めから続いた文科省委託事業と数年続いた高津区事業委託が終了となりました。研究の基幹がなくなったことは大きな痛手ですが、残る事業を一杯、推進します。  
(事務局次長 對馬)